



月刊「キリスト教書評誌」

本のひろば

September 2022 9

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2022年9月1日発行(毎月一回1日発行) 第777号

● 出会い・本・人

生かす言葉を求めて、付箋だらけの本 ネルソン橋本ジョシユア諒

● 特集「イエス・キリストの生涯」を学ぶには

この三冊！ 嶺重 淑

● 本・批評と紹介

G・タイセン著／大貫 隆訳

新約聖書のポリフォニー 浅野淳博

大島 力著 自由と解放のメッセージ 左近 豊

岩城 聰著 今さら聞けない!?キリスト教

聖公会の歴史と教理編 林 牧人

奥田知志文／黒田征太郎 絵

すべては神様が創られた 関根一夫

戸田 聡著 古代末期・東方キリスト教論集 佐々木亘

相川裕亮 著

ビリー・グラハムと「神の下の国家」アメリカ 大宮有博

大宮有博著 アメリカ・キリスト教入門 藤本 満

近刊情報

バックナンバー表

書店案内

八木重吉

うた

家族を詩う

日本キリスト教団出版局 編

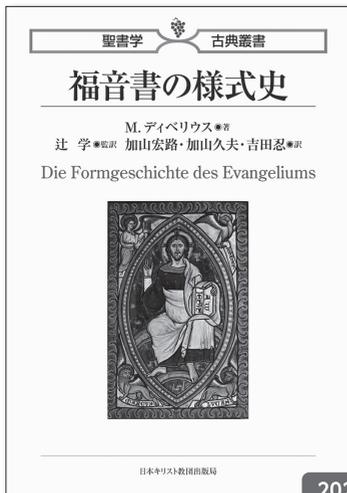
若くして愛する妻と子どもを遺して召された詩人・八木重吉。自然や信仰をうたった詩に加え、深い家族愛から作られた作品を紹介しながら、重吉と家族の物語をたどる。重吉の作品を世に広めた妻とみ子のエピソードも収録。



◆A5判変型 並製・80頁・定価1,320円

2022年8月25日刊行予定

好評発売中 『うつくしいもの ―八木重吉 信仰詩集』 おちあいまちこ 写真 1,320円



聖書学古典叢書

福音書の様式史

M. デイベリウス 著

辻学 監訳

加山宏路／加山久夫／吉田 忍 訳

第4回
配本

様々な様式で伝承されたイエス・キリストの福音を分類し、それらが教会共同体ごとの「生活の座」を反映した形で蒐集・編纂され、福音書に結実する「様式史」を詳細に分析。新約聖書批評学の礎を築いた古典、初の邦訳。

2022年9月16日刊行予定

◆A5判 上製・390頁・定価9,900円

シリーズ
好評発売中

『福音書記者マルコ―編集史的考察』 4,180円

『石器時代からキリスト教まで―唯一神教とその歴史的過程』 6,600円

『ガリラヤとエルサレム―復活と顕現の場が示すもの』 3,300円



生かす言葉を求めて、付箋だらけの本

ネルソン橋本ジョシユア諒

言葉の無力さ、限界のようなものを感じる時がある。突然の不幸に適切な言葉などあるのか。一時的に言葉を失ってしまふ。結局のところ、この世界の様々な不条理を目の前にしたとき、言葉で立ち向かうのはあまりに無謀な試みのように思える。しかし、言葉は、不思議な力を持つ。空腹を満たすパンとは違って、私たちの魂を潤し、生きていく糧となる。弱々しい言葉でさえ、からし種のように、私たちのうちに根を張り、新しい命を支える木へとやがて成長する。

このような可能性を秘めた「生かす言葉」はどこに現れるのか。多くのキリスト者は「聖書」と、答えるであろう。私もこの答えに強く共感する。しかし、使徒パウロが、アテネでの演説の中で「我らは神の中に生き、動き、存在する」（使徒言行録17章28節）と、ある詩人の言葉に注目したように、「生かす言葉」はあらゆるところでも見出すことができるように思う。

こうして生かす言葉を求めて、私は本を読む。気に入った本

を読み終えると、付箋だらけになっていることが多々ある。心に響く言葉、ひつかかる言葉、惹かれる言葉、日々立ち降りた言葉、気になる言葉が綴られているページに色とりどりの付箋を貼っていく。読了した本を上から眺めると、鮮やかな色がページの間に顔を出している。

「言葉は：読まれることによって命を帯びる」（若松英輔「悲しみの秘義」）。言葉を読むことによって、印刷されたページ上の文字がよみがえる。その瞬間、「ここにはおられない。復活なさったのだ。」（ルカ24章6節）と、天使たちの声が響いてくるようである。大切につなぎ合わされてきた数々の言葉を読むとき、それは生きる言葉として、私を生かす。

遺された言葉、そして未来からやってくる言葉。歴史の中に埋もれている数多くの生かす言葉を、私の魂は探し求めている。そうして、付箋だらけの本が私の本棚にもう一冊並ぶのだ。

（ネルソンはしもと・ジョシユアりょう 四国学院大学准教授）



「イエス・キリストの生涯」を学ぶには ▼この三冊！

嶺重 淑

(みねしげ・きよし・関西学院大学教授)

J・M・ロビンソン『イエスの福音——それは本当は何だったのか』(新教出版社、二〇二〇年)等々、かなりの数に上っている。

それにしてもいったいなぜ、イエスが生きた時代から二〇〇〇年を経た今日においても、イエスに関する本がこのように次々と出版されるのか。その最大の理由は、言うまでもなく、全世界に二十数億人もの信者を有するキリスト教の原点(始祖)である人物に対する高い関心のためであろう。しかしそれに加えて、歴史上の人物としてのイエスについては史料が極めて限られているために不明な点も多いが、その空白部分を各著者が想像力や独自の解釈で補おうとするために様々なイエス伝が生まれてくるとも考えられる。事実、イエスの生涯に関する具体的な記述は聖書外文献にはほとんど認められず、実質的には新約聖書の福音書に記

イエス・キリストに関する書籍は、信徒向けのみならず、一般読者向けや子ども向け、さらには学術的・専門的文献に至るまで様々なものが数多く存在している。実際、イエス・キリストほど、数多くの書物で取り上げられている人物は他に存在しないであろう。比較的最近(二〇一〇年以降)日本で刊行されたものに限っても、イエスの生涯(史的イエス)に関する書籍は、(今回紹介するものを除いて)E・P・サンダース『イエス——その歴史

的実像に迫る』(教文館、二〇一二年)、M・ボーグ『イエスとの初めての再会——史的イエスと現代的信仰の核心』(新教出版社、二〇一二年)、J・H・チャールズワース『これだけは知っておきたい史的イエス』(教文館、二〇一二年)、R・ボウカム『イエス入門』(新教出版社、二〇一三年)、J・D・クロツサン『イエスとは誰か——史的イエスに関する疑問に答える』(新教出版社、二〇一三年)、若松英輔『イエス伝』(中央公論新社、二〇一五年)、

されている成人後の宣教活動に関する記述のみであり、イエスの幼少年期や青年期については具体的なことはほとんど知り得ないというのが実際のとこである。

以下の部分では、イエスに関する様々な書籍の中でも、専門的なものは除き、一般の読者にも親しみやすそうな三冊を選んで紹介していくことになる。

『J・ロロフ』イエス——時代・生涯・思想』

本書はドイツを代表する新約学者のユルゲン・ロロフの著作であり、一般読者向けの“Wisdom”（『知』）叢書の一冊である。この叢書は様々な主題についてコンパクトにまとめたペーパーバックの入門書シリーズであり、本書の原著も僅か一二八頁の「小著」である。本書の特徴は何より、イエスの生

涯（史的イエス）について、最新の学問的成果を踏まえつつ、簡潔にわかりやすく、かつ偏りなく穏健な立場からまとめられている点である。しかも著者は、限界を認めつつも、厳密な分析を通してイエスの歴史的事実を可能な限り正確に描き出そうとしており、それだけに信頼できる内容になっている。

本書の構成を概観しておく、冒頭の導入（第一章）に続いて史的イエスに関する資料問題（第二章）、そしてイエスが生きた時代のユダヤ世界的社会的・宗教的状况（第三〜四章）について述べられた後、イエスの生涯及びその活動に関する記述（第五〜七章）が続く、最後にナザレのイエスから教会のキリストへと変質していく歴史的経緯（第八章）及び今日のメディア時代における批判的コメント（第九章）が述べられる。このように著者は、厳密な歴史的研究と現代における世界認

識の双方に基づいて、「ナザレのイエスという謎めいた人物についてある程度の確信をもって語れることを確認しようとしている」（一六頁）。いわゆる史的イエスの研究の概要と現状について学びたい読者には特に薦めたい一冊である。

D・ゼレ／L・シヨットロフ『ナザレのイエス』

本書はドイツの著名な二人の女性神学者が共同で執筆したもので、ナザレのイエスの生涯と思想について現代の諸問題と関連づけながら記されている。冒頭の「はじめに」で述べられているように、本書は、女性の役割・機能・影響力を重視する「フェミニニスト的視点」、社会のなかで「後になる」（マタイ二〇・一六）者とされている人々に関わる「解放の神学の視点」、そして、キリスト教における伝統的な反ユダヤ

主義への反省という三つの視点に立っており、イエスの人物像と宣教の特徴を現代人にもわかりやすく、また、あらゆる人々を視野に入れ、開かれた視点で記されている。そして、紀元一世紀のパレスチナの文化的・社会的背景を念頭に置きつつ、誰もが自分が生きている世界で、それぞれの日常生活の中で神を経験できるということを示そうとしている。

本書は総じて、イエスの生涯の歩みに沿う形で、イエスの誕生、受洗、種々の宣教活動、十字架の死、復活という順序で記されているが、随所に初学者向けに専門用語や重要概念に関するコラムが挿入され、また巻末には用語解説が付せられ、専門外の読者にも十分に理解できるように配慮されている。さらに、現代の詩人による詩が頻繁に引用されており、これを通して読者はイエスの宣教のメッセージをより

深く体感することができようであろう。また、キリスト教の反ユダヤ主義に対する本書の批判的な観点は、何よりフアリサイ派に対する一面的な否定的見解を一貫して退けようとする姿勢に如実に示されている（七二―七六頁参照）。

筆者はかつてスイスに留学中、ベルン大学神学部で数日間にわたって開催されたシヨットロフ氏による集中講義に参加する機会を得たが、ユダヤ教をキリスト教の母として肯定的に捉えようとする姿勢が今でも強く印象に残っている。なお、本書の訳文は原著の独文からではなく英訳からの重訳であるが、訳文は明快かつ的確で全く遜色がないことも付け加えておきたい。

遠藤周作『イエスの生涯』

本書は日本を代表するカトリック作家である遠藤周作の手になるイエス伝

であり、一九七三年の刊行から半世紀近くを経た今日においてもその魅力は全く失われていない。著者は歴史研究や聖書学の知見も踏まえつつ、限られた情報をもとに、一小説家として見事に人間イエスの生涯のストーリーを書き上げているが、言い換えると、この作品には著者独自のイエス像が色濃く反映されており、弱さをもち、誤解と嘲りのなかで生涯を終えた人間イエスの姿が特に強調されている。

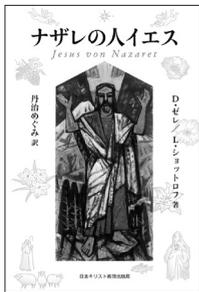
例えば本書で著者は、イエス自身はごく普通の容貌であったが、身なりはみすばらしく、実年齢よりかなり老けて見えたと断定している。また、ペトロをはじめ弟子たちはイエスをローマに対抗する民族指導者と誤解し、彼の宣教の本質を最後まで理解できずにいた。特に受難物語においてイエスは無力な人物として描かれているが、この弱々しいイエスに幻滅した弟子たちは、



『イエス
—時代・生涯・思想』

J. ロロフ：著
嶺重 淑、A. ルスターホルツ：訳
教文館
2011 年刊
四六判 190 頁
1,650 円

自分たちの身を守るために衆議会と取り引きしてイエスを否認し、最終的にイエスは一人で罪を負わされ、死に追いやられることになる。イエスを裏切ったユダの人物像も特徴的であり、ユダだけがイエスの本質を理解していたのであり、またユダの苦しみをイエスは知っていたと比較的肯定的に描写



『ナザレの人イエス』

D. ゼレ、L. ショットロフ：著
丹治めぐみ：訳
日本キリスト教団出版局
2014 年刊
四六判 210 頁
2,420 円

されている。そして、神の愛を訴え、同伴者として人々に寄り添おうとしたイエスの生き様とその教えの本質は、本書全体を通して何度も繰り返し返される「幸いなるかな、心貧しき人」以下のフレーズによって印象的に指し示されている。
本書の末尾で著者は、聖書の記述か



『イエスの生涯』

遠藤周作：著
新潮社
1982 年刊
文庫判 272 頁
605 円

ら事実としてのイエスの生涯は知り得なくても、その真実は認めることができるのであり、その魂の真実は否定することはできないと述べているが、まさに本書には、イエスの真実の姿を追い求めた作家による「真実のイエス像」が描かれている。

「検索プログラムとしての 神話」の可能性

〔評者〕 浅野淳博



新約聖書のポリフォニー
新しい非神話論のために

新約聖書のポリフォニー
新しい非神話論のために

G・タイセン 著
大貫 隆記 訳



ドイツ語圏を代表する新約聖書学者であるゲルト・タイ
セン教授による『新約聖書のポリフォニー——新しい非神
話論化のために』が、大貫隆記の手による翻訳によって日
本語読者に提供されたことは、非常に喜ばしいことです。
それは本著が、非神話（論）化 (Entmythologisierung)
のプログラムが現代においても貢献し続ける可能性を讀者
に提案しているからです。

副題の「新しい非神話論化のために」が示すように、本
著はブルトマンの非神話論化を補正して新たに提示する試
みです。背景にはナチス・ドイツの影響下での神学的議論
があります。E・ヒルシュに代表されるドイツ神学者らは
戦前と戦中にかけて、全体主義的な国家社会主義との一体
化によって〈ドイツ国家の歴史の中に神が働く〉という歴
史的解釈を提唱しました。この状況下で、ブルトマンは非

神話論化というプログラムをもって対抗に努めました。ブ
ルトマンはこの抵抗を個人主義的な実存論によって試みま
した。しかし現代社会において私たちがこのプログラムを
継承しようとするなら、非神話論化に個人主義を越えた社
会性・共同体性を備えた視点が不可欠となります。

そこでタイセンは「神話」という媒体に社会的な側面を
見出します。「神話」は目の前にある現実が根本的に象ら
れることとなった経緯についての物語です。タイセンはあ
る意味での比喩表現である神話を人間が真の「いのち」を
検索するプログラムと理解しますが、その探索の範囲をさ
らに世界の現実全体の意味へと拡張します。なぜなら人は、
自己のみならず世界の現実全体を探究する際に神話的にそ
れを行い、自分は誰か、および世界は何かと問いつつ、そ
れに対して神話的に答えるからです。

私たちは、このような検索プログラムを通して、神あるいはキリストをどのように理解するでしょうか。タイセンはその新たな非神話論化によって、ブルトマンにおいては背後に隠れていた神の問題が明らかになると述べます。それはつまり、「神が現実全体の秘義に満ちた存在」（一〇八頁）であるということです。タイセンはこの神の体験を、〈閉めきった空間から宇宙へと解き放たれた人が、その宇宙である現実全体との共鳴によって、進路と進路を探す自由とを得ること〉と表現します。さらにキリスト（の神話）は、世俗的精神性であるその閉めきった空間を神である現実全体へと解放する鍵です。キリストが啓示と言われるゆえんです。

このようにして新たな非神話論化のプログラムは、キリ

スト教倫理、自然神学、エキュメニズム等を看過しがちだったブルトマンの非神話論化のプログラムに新たな補正を加えることによって、教会間、宗教学間、文化間の対話の可能性を得ます。神を「現実全体」、キリスト神話を現実全体へと人を解き放つ「鍵」と表現するとき、現代のキリスト者がこれをより説得性のある宗教表現として受けとめるかは各読者の評価を待つことにしましょう。何らかの文化的文脈なしに特定の宗教体験が説得性を持つかという問題は別として、すくなくともこの宗教表現は諸宗教の間の対話を強く促すコミュニケーション・ツールとして有用であるように思われます。

（あさの・あつひろ 関西学院大学教授）

（四六判・二七八頁・定価三九六〇円・教文館）

最も偉大な祈り 主の祈りを再発見する

J・D・クロツサン

小磯英津子 訳 河野克也 解説

イエスが直接弟子たちに教えた主の祈りは、キリスト教の祈りの原点である。この祈りが持つ革命的なメッセージを、歴史的人物としてのイエスを探求する「史的イエス研究」で一代を画した新約学者が説き明かす。聖書学や考古学の知見だけでなく、他の著作には見られない深い霊性をもって、主の祈りがキリスト教徒に限らず、祈る人すべてに深く問いかける革命的なメッセージを含んでいることを示す一冊。

A5判並製・256頁・定価4180円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

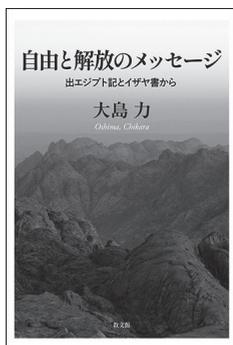
<https://bp-uccj.jp>

われわれにとつての「エジプト」 「バビロン捕囚」とは何か？

〈評者〉 左近 豊

膨大な読書量（小説から神学書に至るまで）と緻密な聖書学的識見に加えて、教会と教育における繊細で思慮深い牧会経験に裏打ちされた説教集である。著者は、イザヤ書研究の第一人者として多くの専門研究を手がけつつ、同時に阿佐ヶ谷教会、石神井教会で三五年間牧師として教会形成と牧会に当たり、さらに青山学院大学で二五年間、若い魂と向き合い、献身者を送り出してきた多彩（才）で一途な伝道者である。

「出エジプト記」と「イザヤ書」を一つの説教集で結合させる視点は、聖書全体が語る神の熱情に打たれ続けてきた著者ゆえのものと言えよう。イザヤ書四〇章以下には、バビロン捕囚からの解放と故郷への帰還を、「新しい出エジプト」として、モーセによる出エジプトで働かれた神を思い起こさせながら、しかも過去の救いに希望を見いだせ



自由と解放のメッセージ

出エジプト記とイザヤ書から

大島 力著



ずに冷え切って頑なに閉ざされてしまっていた捕囚民の心にねんごろに語りかける預言者の言葉が響いている。不正や不条理に晒され慣らされるうちに意気消沈し、抗う力も失せて、唯々諾々と暴虐にも権力にも屈従せざるを得ない世代の魂を捨て置かれぬ、むしろ発せられる言葉にも、声にならないほどの小さい叫びにさえも耳を傾け、たぎる熱情と憐れみをもって、天を裂いて降って救う方の臨在を、本書は今日の世界に向けて生き生きと語る。作家・高橋たか子の『装いせよ、わが魂よ』や映画「少年の日の思い出」などからの引用が、読み手にイザヤの言葉のインパクトと慰めに満ちた響きを今に想像させる助けとなっている。著者は、「出エジプト」の救いの波紋が同心円状に紀元前六世紀の捕囚期に救いの波となり、この解放と自由が波状に信仰共同体に継承、増幅され、今日の世界に迫り寄せ

る出来事であることに気づかせる。二一世紀前半を生きる者にとっての「エジプト」、そして「バビロン捕囚」状況が鋭く抉り出される。例えば、放射線による汚染と加速する地球温暖化によって住み慣れた社会や共同体を追われる現代人の故郷喪失状況に、現代版バビロン捕囚の現実を見る視界が開かれる。また核兵器の抑止力による有無を言わせない鬱屈した状況は、「フアラオ」の専制的支配の下で生きざるをえない無力と重ね合わされる。エジプトの奴隷の家に、そしてバビロン捕囚の民に語られた旧約聖書の言葉は、見知らぬ異国の遠い過去の記憶の記録ではなく、COVID-19とウクライナ戦争の影に生きる私たちの今にこそ語りかける生ける神の言葉であることが開示される。

イザヤ書五六章以下の言葉を担った「第三イザヤ」につ

いて、レンブラントになぞらえながら、「対象の暗さについてはどこまでも現実的に、しかし、それへの関わりにおいて光を見失わずに生きる」預言者であったと述べる（二二七―二二八頁）。捕囚から解放されてもお色濃く現実を覆う深い闇の中であって、六〇章以下の言葉は、レンブラントの絵画に差し込む光に例えて語られる。神の言葉は、聞くだけでなく、見るものとされる。さらに高俊明牧師の詩によって、祈りと和解に生きる信仰者の進む道が照らし出される。その光に主イエスを仰ぐ信仰が証しされる。聞き、見、従い、信じる道筋が一筋の光で貫かれてゆく。

（さん・とむ）美竹教会牧師・青山学院大学教授

（四六判・一六八頁・定価二〇九〇円・教文館）

大庭貴宣

キリスト聖霊神学校教授・南山大学非常勤講師・南山大学大学院非常勤講師

エイレナイオスの聖霊神学



父なる神、御子、聖霊、それぞれの位相と相互の働きについて考察し、三位一体の神が人とのどのように関わってくるのかを論ずる。異端反駁の苛烈な論戦を張りつゝ涵養されていったエイレナイオスの聖霊神学、その全貌を解明する！ここから始まる！
2世紀の黎明期！ A5判変型・288頁・2530円

2世紀に解き明かされた三位一体と神化

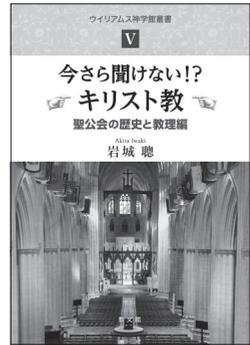


私もまたカインなのか。アベルはどこにいるのか。一師父たちの食卓 第2弾は、殺人というテーマを中心に創世記4章を単独で取り上げ、丹念に辿り直した正教会章句による意欲作。
A5判・192頁・1650円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (社)

源流をたどりつつ 教会の課題を指し示す

〈評者〉 林 牧人



ウイリアムス神学館叢書V

今さら聞けない!?

キリスト教

聖公会の歴史と教理編

岩城 聰著



日本聖公会の聖職養成を担うウイリアムス神学館による

叢書シリーズから、待望の「聖公会の歴史と教理編」が上梓された。著者は、日本聖公会司祭であり、ウイリアムス神学館教授を務め、聖公会全体の歴史と教理から現代の宣教課題に至るまで広い学識を持つ碩学、岩城聰師である。

「主教制を採りつつ信徒の同意も重視する（実践の共同体）である聖公会（アングリカン・コミュニオン）」と帯にある。この点一つとっても、聖公会を外から眺める者たちにとっては新鮮に映るのではないだろうか。分かったつもりになっていたものが揺さぶられ、さらに「その特徴的な思想「ヴィア・メデア（中間の道）」はいかに形成され実践されてきたのか」とくれば、いやがおうにも本書への期待は高まる。

本書は「歴史編」と「教理編」の二部構成でわかりやす

く整理されている。

「歴史編」は、聖公会の源流たるブリテン島におけるキリスト教の始まりから丁寧に説き起こし、大陸とは異なる教会の文脈を念頭に置いた上で、その後のアングロ・サクソン伝道の端緒となった教皇グレゴリウスとカンタベリー大主教オーガスティンから、イングランド宗教改革に至る道筋とその後の経過（祈祷書の制定など）を整理しつつ示していく。ピューリタン革命やメソジストについても論じているが、これらとの関わりで、スコットランド聖公会とノンジュラー（臣従拒否者）について、また、それがアメリカ聖公会を誕生させたこと、イングランド教会が国教会としての立場は維持しつつも「いくつかの教派のひとつ」として社会全体、国民全体に奉仕する教会への転換を求められたこと、メソジストがイングランド教会そのものの覚

ヨベルの新刊案内



高橋秀典 〔立川福音自由教会牧師〕 四六判・248頁・1650円

心が傷つきやすくなる人への福音

発売前から反響！

「神を信じれば、平安で、揺れ動くこともない！
こんな短絡と誤解にもう苦しまなくていい。
（含意的）と言われていた諸感情に振り回され、そんな
自分をどうに断罪し続けることに無限ループに陥る信
仰者はいないだろうか？（Vineyard）（傷つきやす
くなる）人間の自然な本性と捉え直し、そこから感情
豊かに生へと眼を開いてくれる本先案内の書。」

醒を促し、すべての人の救いと人間性の回復に仕える姿勢を示したことなどを、聖公会の豊かさの源泉として指し示している。さらに、その後のオクスフォード運動から世界宣教に至るまでの道筋が、わかりやすく論じられている。

「教理編」では、教理の源泉としての「祈祷書」の有り様を聖公会の特質としてあげつつ「聖書と理性と伝統」の関わりについて、ピューリタンの「聖書至上主義」に対して「理性と教会の伝統」が強調されるとし、その中で「歴史的な主教制」の下で「教会の公同性」がもつ「包括性」が「主教制と信徒代議員制の併存」に代表されるように、絶えず真理を求め続ける「ヴィア・メディア」の特質として顕在化し、アングロ・カトリシズムの勃興から宣教理解の拡大にもつながっていることを描き出す。



金子晴勇 〔ヨロッパ思想史〕

キリスト教思想史の諸時代 〔第6回配本〕

新書判・平均272頁・各巻本体1320円

新書判・平均272頁・各巻本体1320円

「ヨロッパ精神の源流」〔既刊〕
I ヨーロッパ精神の源流〔既刊〕
II アウグスティヌスの思想世界〔既刊〕
III ヨーロッパ中世の思想家たち〔既刊〕
IV エラスムスと教養世界〔既刊〕
V ルターの思索〔既刊〕
VI 宗教改革と近代思想〔新刊〕
VII 現代思想との対決〔第7回配本・準備中〕
別巻1「アウグスティヌスの『霊性思想』」
別巻2「アウグスティヌス三位一体論研究」

その他、現代の課題にも直接触れながら、単なる歴史と教理の解説に留まらず、教会の向かうべき方向性をも指し示している点も見逃せない。

評者は、合同教会たる日本基督教団においてメソジスト・ヘリテージを自覚的に担う群（更新伝道会）に属する者であるが、メソジストの母教会としての聖公会を知るということに留まらず、英国から始まり北米を主たる源流とする日本の福音主義教会全体が正しく自己認識をする上に、おいても必読の書であると感じている。豊かな内容が詰まった本書は、聖公会の内外問わず、多くの方に手にして欲しい一冊である。

（はやし・まきと）日本基督教団西新井教会牧師・附属保育園園長
（A5判・二四八頁・定価一九八〇円・教文館）

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

神様の思いは戦争はNO!

〈評者〉 関根 一夫



すべてが神様が創られた

奥田知志文
黒田征太郎 絵



『すべてが神様が創られた』という絵本は不思議な魅力にあふれた本です。

「そう、すべては神様が創られたのだ。すべてに神様の思いが込められている」ということばにはじまり、丁寧に、しかし大胆に、「口は」、「手は」、「耳は」、「鼻は」なんのために創られたのが語られ、さらに、「道は」、「空は」、「海は」なんのために創られたのが書かれ、「そして、人は……」と続きます。

「人はなんのために創られたのか」という問いを絵本にするのは勇気のいることに思いました。

でも、そこに見えてくる神様の思いという土台があるので決してこじつけにならず、愛と平和がどれほど大切なのか、平易な文章で、大人から子どもまで誰にでもわかりやすい文章で語られていきます。

神様の思いが、そのまま筆者の心と言葉を通して痛いほど伝わってくるように感じます。

奥田知志氏は日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会牧師であり、認定NPO法人抱樸理事長であり、その他の重責を担って社会活動が続けておられる方です。

一九八八年に路上生活者に弁当を配ることから始めて住居の提供など三十年以上「ひとりにしない」という支援を続ける抱樸は、現在、生活困窮者だけでなく、地域に暮らす誰もが共生するための仕組みを展開する「希望のまちプロジェクト」という壮大な計画をも稼働中です。

人の痛み、哀しみに長い間真正面から向き合っているからこそ出てくる「戦争はNO!」、人間に対する神様の思いを集約して語られる「戦争はNO!」という姿勢が絵本の中に見事に表現されています。悲しみと痛みを感じなが

ら、敢えて神の思いを見つめ直そう」という意識で書かれた文章には、すさまじい切迫感があります。

神様の人間に対する思い、国に対する思いはこういうことなのだ、明確に言いきる文章は読んでいて心が「そうだ」と納得すると同時に、読者をほっとさせる優しさを感じます。

さらにイラストレーターの黒田征太郎氏が描く絵の一枚は、奥田牧師の文に対する舞台を提供しているようであり、そこに添えられた黒田氏の独特な手書きの文字と文章が生きて、まさにトンでる絵本になっています。

そこには黒田征太郎氏の中にある「生命への支援、人々への寄り添いの心」が愛情深く表現されています。

私はこの絵本を入手してすぐに私が関わっている保育園

の礼拝で園児たちに読み聞かせました。数カ所言葉を言い換えましたが、全文を丁寧に園児たちに読み聞かせました。

園児たちはじーっとして、驚くほど静かに聞いていました。そして、礼拝が終わったとき、いつもはハイタッチなどして「バイバーイ！」と挨拶する園児たち、特に年長の園児たちがそっと私のところにやってきて代わる代わる私に抱きついて、ハグをしてそれぞれの教室に行きました。それは厳粛な瞬間でした。「神様の思いが何なのか」わかった瞬間でもあったのだらうと思いました。

大人にも、子どもにも、何度も読み聞かせて欲しい絵本です。

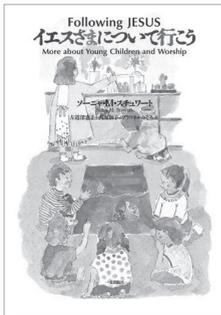
(A4変型判・四六頁・定価一七六〇円・木星舎)

(せきね・かずお || M A C F 牧師)



イエスさまについて行こう

ソーニャ・M・スチュワート
左近深恵子・西堀和子・ブラウネルのぞみ訳



モンテッソーリ・メソッドに基盤を置き、子どもたちが自分で、神さまに出会える礼拝を提供するプログラム「ちいさな子どもたちと礼拝」の続編。フィギュアや教具を用いて実演する聖書物語、その物語の中に生き、深く味わうための工夫の数々。

A4判
定価 4,180 [本体 3,800 + 税] 円
ISBN978-4-86325-134-2



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<https://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

キリスト者・日本人として
誠実なる探求の粹

〈評者〉 佐々木 巨

戸田 聡
古代末期・東方キリスト教論集

古代末期・
東方キリスト教論集

戸田 聡著



著者は北海道大学教授で、オランダのライデン大学から博士号を取得し、外国語の書籍や論文を多数執筆するなど、国際的に活躍されている。その著者が昨年の『古代キリスト教研究論集』（北海道大学出版会）に引き続き、東方キリスト教研究も加えた本書を今回公刊された。「あとがき」

で、著者は「謝らない態度」が「ヨーロッパの文化の特徴の1つを成している」が、「キリスト教のメッセージは罪の自覚を促し、そして赦しの必要性を説くもの」であり、「赦しが必要であることを認めるためには、自分の非を認める、つまり謝ることが不可欠」である以上、「ヨーロッパは果たしてキリスト教を理解した（或いは根本的に受容した）のだろうか」と問いかけている。キリスト教はヨーロッパの宗教だと考えている人にはとても衝撃的だが、これを機会にキリスト教を、地理的にも時代的にもより幅広

い視野から捉え直してみたい、と思われる方には必読の書である。

本書は3部構成になっている。第1部「キリスト教修道制、古代末期」では、主に著者の『キリスト教修道制の成立』（創文社、二〇〇八年）を巡っており、「殉教を求める人々の熱情が禁欲実践へと向かったことによって修道制が成立した」（三〇―三二頁）。このように成立した修道制のあり方は、現代における信仰の意味に多くの示唆を与えるであろう。

第2部「東方キリスト教とその周辺」では、まず『エジプト人マカリオス伝』の伝承の過程が、コプト語、シリア語、アラビア語等の写本を丁寧に見直し、バルダイサンによるシリア後半では聖人伝が取り上げられ、ア語の『諸国の法の書』の翻訳（第7章）がなされている。

まさに八面六臂である。難解だが、謎解きの興奮を堪能できる。

第3部「その他」では、主に著者の翻訳であるマックス・ヴェーバー『宗教社会学論集 第1巻上』（北海道道学出版会、二〇一九年）を巡って展開される。既に多くの翻訳が存在しているが、ヴェーバーが西洋古代学者であるからこそ、著者が翻訳する必要性と独自性が存している。古代・東方からヴェーバーに至る展開は著者の真骨頂と言えよう。このように本書では、現代的な問題意識を全面に出しながら、「キリスト教とは何か」が多元的に問われており、この書を手にした読者にはきつと様々な新しい発見がもたらされるであろう。

さて、著者は自らがプロテスタントの信者であることにとびたび言及している。例えば、第1部では主に修道制を論じているが、ルターが修道制を否定していることから、

その現代的な可能性にも触れている（第5章）。たしかに著者の驚異的な研究業績は、まさにヴェーバーの禁欲（第1部第4章）がなせる業である。一方、中世哲学の山田晶先生はことあるごとに、「ルターはカトリックの恩人だ、ルターがいなかったらもつと悲惨なことになっていた」と評者に言われた。カトリックだ、プロテスタントだという区別を、そろそろ卒業する時期に来ているのではないだろうか。たしかに、両者は思想的にも典礼的にも大きく異なっているが、この違いは「神のこと」じゃなくて「人のこと」（マタイ一六章二三節）では？この点、著者の見解をいつかお聞きしてみたい。

（さささき・わたる＝鹿児島純心女子短期大学教授・図書館長、経済社会学会理事）

（A5判・四〇〇頁・定価五七七五円・新教出版社）

あらずじで迎る
新しい聖書入門！

読めるわかる
**聖書の
ストーリー**

竹ヶ原政輝 [著]
日本基督教団高の原教会牧師
同志社大学キリスト教文化センター
チャプレン

世界の創造
アブラハムの
召命
イスラエル
王国の
盛衰と滅亡
イエスの
誕生
十字架と
復活
教会の
誕生と宣教
終末

天地創造から
イスラエル王国の盛衰、
イエスの誕生、十字架と復活、
使徒たちの活動まで。

大学を舞台に多くノン
クリスチャン学生と共に、
聖書に向き合ってきた
若手牧師が書き下ろす、
聖書のグランド
ストーリー！

第一部【物語編】
聖書の〈あらずじ〉
をわかりやすく解説。

第二部【文書編】
66巻の各書簡の内容と
特徴を簡潔丁寧に解説。

A5判・288頁・定価2,200円（税込）

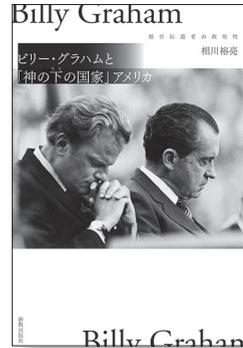
キリスト新聞社
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
AVACビル6階 TEL 03-5579-2432

その思想を冷静に学ぶ 最良の書物

〈評者〉
大宮有博

その昔、こどもたちが「巨人、大鵬、たまご焼き」に目を輝かせていた時代、日本のクリスチャンは「バルト、ニーバー、ビリー・グラハム」が大好きだった。しかし、今の若いクリスチャンで彼を知るものは少ないかもしれない。

ビリー・グラハムは、二〇世紀アメリカの最も有名な大衆伝道家である。彼は、野外競技場やホールに大人数の聴衆を集めて行う伝道集會を、世界中の大都市で次々と行った。グラハムは教派から独立した伝道協會を主宰していた。集會を開くときは、開催地のクリスト者に教派を越えた実行委員会を組織してもらっていた。彼は福音派だけでなく主流教派からも支持を得た。それはグラハムが特殊な教理を述べたり、極端な道徳的・政治的立場をふりかざしたりせず、ただ罪の悔い改めを力強く訴えたからである。そし



ビリー・グラハムと
「神の下の国家」アメリカ
福音伝道者の政治性
相川裕亮著



て彼はクリスト者に分断よりも一致を呼びかけた。二〇一八年に九九歳で亡くなったが、今なおその人気は高い。

またグラハムは、ニクソンを応援したところから政治的な影響力を発揮するようになった（本書第四章）。ブッシュ親子との親密な関係も有名である。長らく大統領領選になるとグラハムが誰を支持するかが注目された。しかし彼は、政治権力とは「つかず離れず」の距離を保った。彼の政治との距離はあくまでも福音伝道者としてアメリカを導くための手段なのだ。その点が八〇年代以降に台頭するキリスト教右派と決定的に違った。それゆえに彼はアメリカ人に尊敬された。

本書の著者は政治史・政治思想史が専門分野である。そして本書は法学研究科に提出された博士論文を加筆修正したものである。著者は、グラハムの罪論と福音伝道家とし

ての職務観に着目しながら、グラハムの思想全体を明らかにしている。なお本書のフォーカスはニクソン時代に絞られている。また各章ごとに、グラハムと比較する対象を置き、フィンステューエンといった先行研究を検証するという論文の模範的スタイルを貫いている。したがって、とても読みやすい。しかも、本書をていねいに読むと、一行一行に学ぶべき点がちりばめられている。グラハムのような人気のある伝道者に関する研究は、どうしてもグラハムのファンかアンチかに分かれてしまうが、本書は極めて冷静にグラハムを分析している。

本書を概観する。第一章で著者は、グラハムの人物像を明らかにするためにアメリカ新福音派とファンダメンタリストの歴史を概観し、彼が「福音伝道家」としてアメリカ・キリスト教史の舞台にどのように登場したかを述べている。

第二章で著者は、グラハムの神学を罪論と福音伝道者としての職務観に焦点を置いて説明する。ここではR・ニーバーによるグラハムの罪論に対する批判が取り上げられている。

第三章で著者は、グラハムのソ連に対する姿勢を、ファンダメンタリストのカール・マッキンタイアと比較しながら

ら述べている。マッキンタイアがアメリカとソ連・共産主義を善悪二元論で見たのに対して、グラハムは共産主義を欧米人に自省を促すものとして捉えた。

第四章は、グラハムとニクソンの関係についてである。あわせて、ここでは「積極的思考」で有名なノーマン・ピールと比較しながら、グラハムの罪論がどのように変遷したかが述べられている。彼は伝道説教を重ねるなかで、罪についての考え方を練りなおした。

第五章は、ベトナム戦争をめぐるグラハムとハットフィールド上院議員の間の議論についてである。ハットフィールドはグラハムとニクソン政権の近さを批判し、もつと政治に対して預言者のように対峙すべきだとグラハムに忠告した。それに対してグラハムはハットフィールドを高く評価しつつも、一致を呼びかけた。

本書は団塊の世代のクリスチャンを魅了したビリー・グラハムの思想を冷静に学ぶ最良の書物と言える。

(おみや・ともひろ 関西学院大学法学部教員
四六判・三〇〇頁・定価二七五〇円・新教出版社)

知っているべき、でも知らなかった
大きな流れ・決定的な出来事・隠れた事情

〈評者〉**藤本 満**



アメリカ・
キリスト教入門
大宮有博著



アメリカがキリスト教国であることを知らない人はいないであろう。しかし、それがヨーロッパのキリスト教とどのように異なる発展を遂げてきたのか、その建国の精神、領土の拡大、移民文化、富の蓄積、教育、格差社会、政治、戦争、映画を含めた文化に至るまでキリスト教の影響力を把握することは、一般の私たちには困難である。一つの国でありながら、各州に法制度があり、リベラルと保守が過激なまでに対立する。それぞれがキリスト教的根拠を持っている。そのキリスト教が多種多様であるので、私たちは容易に理解できるものではない。近年で言えば、トランプ前大統領の背後にいた「白人福音派」とはどのようなグループなのか。トランプ陣営はどのように彼らの票を巧みに取り込んだのか。そんなことまで本書は教えてくれる。著者は二〇〇六年に『アメリカのキリスト教がわかる』

を出版されているが、その後の時代で起こったことを、さらに深まる専門的な視点から、総括的・具体的な情報の詰まった「入門書」を新著として発行されたことは、大きな貢献である。英語に翻訳してアメリカでも読んでいただきたいくらい、コンパクトで豊かな魅力がある。いくつかの特徴をあげて、書評としたい。

一、魅力ある教師が、学生の好奇心を駆り立て、大きな流れを理解させ、決定的な出来事を解説し、詳細に人物や課題を取り上げ、自由自在に、そして一気に講義を展開していく様子がわかる。著者は南山大学、名古屋学院大学、愛知教育大学、そして今は関西学院大学で教えている。学生を刺激し、共に考え、対話するという著者の教師としての姿勢がなかったら、このような味わい深い入門書が生まれるわけがない。

二、福音派の歴史に丁寧。アメリカの教会史で、時として福音派は感情的・大衆的なグループとして敬遠されてきた傾向がある。しかし本書は、一八世紀第一次大覚醒の中心にいたエドワーズだけでなく、入植地を果敢に巡回し大覚醒の霊的溫度を高めたジョージ・ホイットフィールドを取り上げている。南北戦争以前は、女性の人權と働き、奴隷解放といった社会問題にボイスを発していた福音派であるが、その後、魂の救いに焦点を合わせ、社会悪との格闘から遠のいてしまう。そこに福音派対社会派の構図が生まれていく。さらに二〇世紀に入って進化論や聖書の批評学

に「反対する」ことによって自分たちの信仰を守ろうという姿勢が、六〇年代からの保守とリベラルの文化戦争（妊娠中絶、同性婚、公立学校における宗教教育、銃規制、移民政策）に現れる。しかし、著者はフラー神学校の設立など穏健福音派の評価も忘れない。

三、十二章ある各章は、興味深いテーマを独立して掘り下げる。第四章はアフリカンアメリカンの教会と文化。第六章は「選ばれた民」アメリカが「神からの使命」と称して、大陸の西へ南へ領土を広げ、先住民、アラスカ、海外宣教へと乗り出していく、今も変わらぬアメリカの姿。第九章は二つの世界大戦とその中において平和を掲げる勇者

たち。歴史を扱うので固有名詞の多さは避けられない。しかし、一章一章が時代を捕らえ、今日につながる物語として記されている。

本書の意義と評者が考える言葉を引用して評を閉じる。七〇年代後半から、LGBTQ+を精神疾患とみなし、キリストの力によって転換できると、「ほほ拷問」に近い治療が始まった。それを強く推進した団体の名前は、なんと「エクソダス・インターナショナル」である。二〇一三年に、この団体は無知を認め、被害者に謝罪し、活動を停止したようだ。しかし、依然として反対者は存在している。

「現在におけるLGBTQ+に対する差別と暴力の原因は、宗教が無知しかないと言える状況である。そしてその無知も宗教によるのだ——アメリカという国を見ているとそう言わざるを得ないはならないだろうか」（本書、237頁）。「無知」が差別や支配を生み出したことは歴史を見たらわかる。そして、その無知を作り出すのが「宗教」でもある。この現実を目を向けると、本書の意義は輝きを増す。

（ふじもと・みつる）
ラインマヌエル高津教会牧師

（A5判・二九四頁・定価二八六〇円・キリスト新聞社）

■キリスト新聞社

大災害の神学

——東日本大震災国際神学シンポジウム講演録

藤原淳賀編

2022年2月に行われた第7回東日本大震災国際神学シンポジウムを書籍化。アリストター・E・マクグラスのほか、日本のカトリック、改革派、日教団、福音派の神学者、牧師があの大災害を振り返り、新たな時代に向けて神学する。
A5判・136頁・予価1980円

■日本キリスト教団出版局

聖書学古典叢書 福音書の様式史

マルティン・デイベリウス著／辻学監訳

加山宏路、加山久夫、吉田忍訳

説教、聖伝、語録集など、原始教会にイエス・キリストの福音を伝えてきた様々な「様式」とその「生活の座」を分析。新約聖書学の礎を築いた古典、初の邦訳。
A5判・390頁・定価9900円

キリスト教の歴史おもしろクイズドリル

越川弘英監修

「中世では、虫も破門されたの……？」などなど、三〇〇問以上のクイズによって奥深いキリスト教の歴史を楽しく学べる一冊。
A5判・96頁・予価1100円

ヨハネ福音書を読もう 下

——神の国へのサウダージ

松本敏之著

ブラジルで牧会をした経験を持つ著者が、さまざまな角度

INFORMATION

近刊情報

からヨハネ福音書のメッセージを読み解く。下には一章以降の黙想を収録。
四六判・256頁・予価2640円

■教文館

短く簡単な祈りの方法

——内的祈りの手引き

ギユイヨン夫人著／大須賀沙織訳

オノレ・ド・バルザックに多大な影響を与えた、17世紀フランスの神秘思想家による信心書。心の奥に神を探すことで、誰もが容易に高次の完成に至ることができると説く。新たな祈りの靈性を求める人々に贈る沈黙の祈りのすすめ。
四六判・222頁・定価2640円

■新教出版社

初期キリスト教の世界

松本宣郎著

ローマ帝国史の視点から初期キリスト教史研究の地平を精力的に拡大してきた著者の、研究史的回顧を含む11の論考・講演を収録。地中海世界に生きた人々の心性、職業労働観、教会の営みなどをめぐり、多岐にわたる論点が浮かび上がってきて興味尽きない。
四六判・400頁・定価3300円

呻きから始まる

——祈りと行動に関する24の手紙

栗田隆子著

「私にとってフェミニズムと信仰はどちらも必要なものです」と語る著者が、言葉になる以前の「呻き」としか言いようのない地点から「宗教」「信仰」そして「フェミニズム」と出会う自らの生の歩みを辿る。話題を呼んだ『ぼそぼそ声のフェミニズム』に次ぐ待望の第二作目。

四六判・240頁・予価2500円



全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本 キリスト教書店大賞2022

2021年1月～12月に出版されたキリスト教書の中から
全国のキリスト教書店員の投票により

大賞が決定!



価格は10%税込 主催 キリスト教出版販売会



ユダよ、帰れ

コロナの時代に聖書を読む

奥田知志 著

定価1,980円 新教出版社



横浜キリスト教書店
高橋友彦さん

著者の奥田牧師が、長年にわたるホームレス支援など福祉の場において、昨今のコロナ禍による、特に弱者の抱える難儀を通して得られた種々の体験を聖書の言葉と対置させている。福音を伝えるべく説教という場を、まるで格闘のように語るメッセージ集。ぜひ御一読を。

受賞の
ことば
奥田知志



撮影タカオカ郎彦氏

恐縮です。初めての説教集でした。でも、説教とは何か分からないままです。社会や人の現実に向き合う中で、ただただ聖書のことばにしがみついてきました。聖書は面白い。すべての人に感謝。すべての人に平和を。

2位 三浦綾子 祈りのことば

三浦綾子 ことば／おちあいまちこ 写真

定価1,320円



日本キリスト教団出版局



京都ヨルダン社
田代伸一さん

忙しい忙しいと目の事柄に、労力を費やし集めることに疲弊している。本書で紹介されている「人が死んでのちに残るのは、集めたものではなくて散らしたものである」という言葉は、心にずりりと来る言葉である。

3位 子ども、本、祈り

高藤惇夫 著 定価1,650円



教文館



神戸キリスト教書店 尾上嘉子さん

私も著者と同様、小学校時代に、それも6年生の時、担任の先生から、たくさんの本を読んでいただきました。自分で読むのも好きでしたが、先生が読んでくださるのが、とても楽しみでした。今の子どもたちにも、そのような経験があれば、もっと本を好きになってくれるのではないかと思います。

4位

ひとりりで死なせはしない

日本人牧師、アメリカで
コロナ患者を看取る

関野和寛 著 定価1,430円
日本キリスト教団出版局



5位

目はかすまず
気力は失せず
講演・論考・説教

関田寛雄 著 定価2,200円
新教出版社



6位

新約聖書
おもしろクイズ
ドリル

辻学 監修 定価1,100円
日本キリスト教団出版局



7位

ここが変わった!
「聖書協会共同訳」
新約編

浅野淳博／伊東寿泰／須藤伊知郎／辻学／
中野実／廣石望 著
定価1,320円 日本キリスト教団出版局



8位

ひと時の黙想 全き心を求めて

ストーミー・オマーティン 著／日本聖書協会 訳
定価1,980円 日本聖書協会



9位

旧約聖書
おもしろクイズ
ドリル

大島力 監修 定価1,100円 日本キリスト教団出版局



10位

天国なんて
どこにもないよ
それでも
キリストと生きる

関野和寛 著
定価1,650円 教文館



キリスト教書店大賞フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear/>

「いいね!」をクリックして
最新情報をGET!
QRコードで簡単アクセス!➔



『本のひろば』のバックナンバーを Web 上で閲覧できます。下記アドレスから「『本のひろば』バックナンバー」にアクセスしてください。

<https://honhiro.com/>

2021年6月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：物語の本をめぐる物語 大頭真一		
「説教」を学ぶならこの三冊！ 宮井岳彦		
黒人霊歌の即興性	國友淑弘著、教文館	中 島 聡
キリスト者として生きる	ローワン・ウィリアムズ著、教文館	笹 森 田 鶴
加藤常昭説教全集 31 使徒言行録講話	加藤常昭著、教文館	井 幡 清 志
キリスト教思想史の諸時代Ⅱ	金子晴勇著、ヨベル	出 村 和 彦
荒地に咲く花	村椿嘉信著、ヨベル	千 葉 宣 義
信仰生活ガイド 教会をつくる	古屋治雄編、日本キリスト教団出版局	菅 原 力
日本における讃美歌	手代木俊一著、日本キリスト教団出版局	金 澤 正 剛

2021年7月号

巻頭エッセイ：讃美歌集を編む 中山信児		
「天使をめぐる物語」ならこの三冊！ 井辻朱美		
ここが変わった！ 「聖書協会共同訳」新約編	浅野淳博他著、日本キリスト教団出版局	前 川 裕
神の言葉と契約	大野恵正著、新教出版社	関 根 清 三
神の恵みの水路	佐々木栄悦著、新教出版社	佐 藤 司 郎
ナチ時代に旧約聖書を読む	G.フォン・ラート著、教文館	小 友 聡
改革教会の伝統と将来	袴田康裕著、教文館	藤 掛 順 一
新版・教会歴による説教集 ペンテコステからの旅路	中道基夫編、キリスト新聞社	山 本 裕 司
ルターの心を生きる	江藤直純著、リトン	江 口 再 起
ヘボン先生との対話	柳沼時影著、ヨベル	具 志 堅 聖
私のハットフィールド	山口衣子著、ヨベル	小 野 夕 子
山上の説教を生きる	ジョン・ディア著、新教出版社	谷 本 仰
ヒップ・ホップ・アナムネーシス	山本壮起他編、新教出版社	金 迅 野
女たちの日韓キリスト教史	神山美奈子著、関西学院大学出版会	李 相 勲
キリシタン歴史探求の現在と未来	川村信三編、教文館	根 占 猷 一
言葉を歌う	佐々木悠著、教文館	高 橋 正 道
マーティン・ルーサー・キング・ジュニア	森田美千代著、聖学院大学出版会	島 田 由 紀
近代日本のキリスト者	村松晋著、聖学院大学出版会	山 口 陽 一

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrikan_systen_0530@ghoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-36 靴紐センター・エッセイF	022-223-2736	共用		fcwvk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館2-2 千葉カリスチャペルビル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.avaco.info	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimdo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	162-0814	東京都港区新川1町9-1日キ駅前(外観専門)	03-3280-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkithan.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.ne.jp/~yokohamats/mb.html	sksch@mvva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.la.cocacn.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/ktjordan/	ktjordan@mtbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekabooks.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai_jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三層ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkithan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/nassyara_1007/index.html	sksch@ddokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用		kebookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2022年9月号

特集 大日本帝国の軌跡―東アジア・民衆・キリスト教

寄稿者 洪伊杓、三野和恵、役重善洋

渡部和隆、松谷暉介、高島千代

書評 金歌昊『積み重なる差別と貧困』（大野

光明）／好評連載 フッド・スピリチュアル

ズ（山下壮起）、サンダース&ヤーバー「教会

におけるマイクログレッション」（訳・解説

＝真下弥生）、福音のフラグメント（有住航）、

ルカ福音書（山崎ランサム和彦）ほか

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から



いつも「本のひろば」をご愛読いただきありがとうございます。

今月号裏表紙の左下隅にQRコードがあるのにお気付きでしょうか。既にご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、今年に入ってから「本

のひろば.com」(<https://honho.com/>)という「本のひろば」の専用ホームページを開設しております、このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただければアクセスできます。或いは右の本HPのURLを直接入力してもご覧になれます。また、Googleなどで検索されるならば「本のひろば.com」と入力してください。

本HPでは2013年1月からのバックナンバーを掲載しており、新しい号も約2カ月遅れで更新されていきます。

予告

本のひろば

2022年10月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）久保文彦、（書評）白旗眞生著『羽をやすめるとまり木で』、市川喜一著『真理の霊が来るとき』、青木義紀著『フランソワ・トレティーニの神論』、山我哲雄著『旧約聖書における自然・歴史・王権』、朝岡勝他編『夜明けを共に待ちながら』他

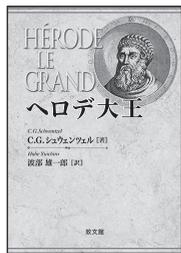
「本のひろば」の書評や特集などの最新情報がトップページで紹介される他、過去の記事を著者名やキーワードなどで検索することもできます。また、スマートフォンでご覧になる方も増えているので、スマホ画面にも対応して読みやすいようにしています。

ゆくゆくはキリスト教書の総合情報サイトとして、お探しのキリスト教書や書評を読んで興味を持たれた本などを、お近くのキリスト教書店やネット通販などで速やかにご購入いただけるような環境を整備していく予定です。

まずは一度ご覧になってみてください。ご利用いただいた感想やご意見などもお寄せいただければ今後の参考にさせていただきます。今後とも、本HPと共に「本のひろば」をご愛顧いただけましたら幸いです。

（村上）

彼は稀代の暴君か、
それとも
辣腕の為政者か？

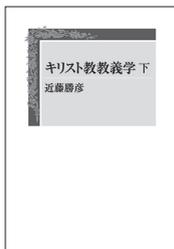


へロデ大王

マタイ福音書の幼児虐殺で悪名を遺すへロデ大王。その真実の姿とは？
イエス時代のユダヤおよび周辺世界の政治的状況と貨幣など考古学的成果
から、へロデとその後継者たちの実像を読み解く意欲作！

● A5判・並製・330頁・定価3,300円

C・G・シユウエンツェル 著
波部雄一郎 訳



キリスト教教義学 下

近藤勝彦 著

佐藤優氏絶賛！(毎日新聞)

日本を代表する神学者によるキリスト教教義学の決定版、ついに完結！

聖書神学を尊重し、遠大な神学史・教義学史を検討し、現代世界の思想的難題にも応答した、教義学の記念碑的著作(全2巻)。下巻では教会論から、救済論、神の世界統治、終末論などが扱われる。

● A5判・上製・1200頁・定価14,300円

「キリスト教組織神学」三部作、好評発売中！

キリスト教倫理学

近藤勝彦 著

旧来の価値が崩壊する今日、キリスト教は倫理的指針となりえるか？
終末論的救済史の中に教会とその伝道を見据えた体系的意欲作！



● A5判・上製・528頁・定価5,060円

キリスト教弁証学

近藤勝彦 著

諸宗教との軋轢が起こる現代社会に生きる私たちに、確固たる伝道的基盤を提示してくれる画期的な書。

● A5判・上製・664頁・定価6,380円

キリスト教教義学 上

近藤勝彦 著

日本語で書き下ろされた教義学の記念碑的著作(全2巻)。上巻では本書の構想と特徴を明らかにした上で、イエス・キリストにおける歴史的啓示三位一体論、創造論、贖罪論までが扱われる。

● A5判・上製・1210頁・定価14,300円



無我夢中

桜美林学園チャプレン会

桜美林学園の創立者・清水安三の信仰と実践

組合教会から中国宣教に派遣された清水は貧しい民衆と出会い、教育事業に乗り出す。敗戦後も志を保ち、ユニークな学園を築いた。その無我夢中で型破りな人生を活写した、現代人必読の書。

◆A5判・定価1980円



レプラと奇跡

脱神話化と脱医学化に向けて

堀忠著 聖書のレプラとは何を指していたのか。この言葉はどのように受容され、いかなる概念史を形成するに至ったのか。古代キリスト教文献を中心とする膨大なデータベースから実証的解明を試みた画期的労作。

◆A5判・定価5940円



初期キリスト教の世界

松本宣郎著 彼らが感じ考え生きた真実に、歴史学から迫る

古代地中海世界に生きたキリスト者たちの心性、職業労働観、教会の営みなどをめぐり、多岐にわたる論点が浮かび上がる興味尽きない11の論考と講演を収録。ローマ史研究に新たな心性史の地平を切り拓いた著者の真骨頂を示す書。

◆四六判・定価3300円



ヤバイ神

不都合な記事による旧約聖書入門

トーマス・レーマー著／白田浩一訳 柄谷行人氏絶賛(朝日7月16日)
 旧約聖書の神はなぜ横暴で残酷に見えるのか。そんな記述をどう解釈すべきか。多くの人が躓くテキストを旧約学の第一人者が取り上げ、それらの表現の意味と理由を考察し、愛と解放の真の神の「人柄」に迫った、目からウロコの書。◆四六判・定価2420円



一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
 二〇二二年九月一日発行(毎月一回一日発行)
 本のひろば 第七十七号 二〇二二年九月号

発行所 〒163-0814 東京都新宿区新小川町9-1 一般財団法人キリスト教文書センター
 電話03-3360-6148 振替00117-0151-2679
 印刷所 モリモリ印刷
 編集人 白田浩一 印刷所 モリモリ印刷
 発行人 金子和人 編集人 白田浩一 印刷所 モリモリ印刷
 発光所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3360-6148

定価七八円(税抜七一円) 63円
 一年分1300円(送料共)

本のひろば.com



死と命のメタファ

キリスト教贖罪論とその批判への聖書学的応答

浅野淳博著

反響続々

代理贖罪論は正しいのか? 聖書が伝えようとしているキリストの死に至る生き様の真の意味を探り、その意味をいかに語るかを方向づける渾身の労作。完膚なき高橋哲哉批判。◆定価 2970円

死と命のメタファ

